

## 第9回審議会要旨

日時：令和3年12月17日（金） 15:00～17:00

場所：阪南市役所 3階 市役所3階 全員協議会室

### 基本構想

#### 【全般】

- ・ともに笑顔をかさそう、〇〇なまち阪南とあるが、例：流山市は「母になるなら流山」、もう少し特徴を捉えつつ、短い文言としてもいいのではないか。
- ・大阪の中核都市（大阪市周辺）が連携したら、阪南のような大阪以南には流入が起きないと危惧している。現在、以南（泉南市）の連携はどのような動きがあるか。  
⇒紀泉連絡会、2年前ほどから発足、泉佐野市・和歌山市・紀の川市などが集まり、組織されたばかりなので、公表するほどの動きはまだない。
- ・移住希望者に対する市のサポート、泉佐野等はHPのトップに載っている。市でも対応してほしい。空家についても行政の支援に力を入れてほしい。  
⇒KIXビューロー：大阪以南の連携、民間企業も参画している。
- ・企業の誘致をすすめる際に、CSV,CSRに力を入れている企業を優遇することも一つの考え。
- ・市民側は、こういった文言で読み込めるといった理解でよろしいか。  
⇒文言理解して、担当課が動くかどうかということであると、担当課の想定に大きく左右されるものの、文言の内容は市民等含め行政と合わせて検討材料にはなろうかと思う。
- ・移住定住のプロモーションと合わせて、アンケートを取りつつ、「選ばれた」理由・魅力を聞き取ることが望ましい。  
⇒強化する項目をある程度特定し、プロモーションに活かそうと思っている。移住者に対して、ロングインタビューを計画している。
- ・「プレーパークに限らず、」というところで、どこまで読み込めているのか、読み込めているとすれば、どのような意図はどうなっているかという確認をしたい。  
⇒基本構想においては、抽象度を高く設定しており、読み込める部分は〇〇といった具合で理化している。

#### 【委員長】

- 他部局、連携ネットワークをつくり、プレーパーク等での事業を実現していきたいという意図だと思うが、実現に向けては、いくつかの障壁を越えないといけないものと考えられる。
- 枚方市では、行政と市民が定期的な意見交換を行っている。今回の協働について、書かれている部分で、合わせて考えていくことで理解してもらいたい。
- みどりの基本計画、都市計画マスタープランにおいては、見直しもかかっておらず、市域で十全な活用が目指されていない。今後、作り直すタイミング等あれば、プレーパークだけ

でなく、活用の方向性を示せたらいいと思っている。

#### 【5-6、5-10】

- ・現状の部分、アダプトプログラムにおいて、「自発的に活動が広がりをみせている」、「高齢化により担い手が不足している」といった、相反するアダプトプログラムの文章が記載されており、わかりにくい。
- ・基本施策5-6、5-10において、アダプトプログラムの文言が重複している。  
⇒5-6は一つにまとめることを検討。  
⇒担当課が一緒に、同じ言葉を記載しているが、協議は検討する。

#### 【1-4】

- ・移住定住のプロモーションと合わせて、アンケートを取りつつ、「選ばれた」理由・魅力を聞き取ることが望ましい。  
⇒強化する項目をある程度特定し、プロモーションに活かそうと思っている。移住者に対して、ロングインタビューを計画している。
- ・シティプロモーション、尾崎駅の名前を変更するとわかりやすいのではないか。  
⇒駅の名称変更は、駅の看板等のコストが大きくなるため、それがネック

#### 【2-3】

- ・子育てに正しい知識を獲得とあるが、子育てに正解がないため、まじめな親が追いつめられるのではないかと。  
⇒「子育てに関する情報や知識の取得に努めます」といった文言に修正する。
- ・子育てに「場」というところには、場だけでなく、人も重要だと思うので、人も追加しておいてほしい。

#### 【1-1】

- ・市民活動センターの指定管理者：まちづくり人材バンク制度をやってもらいたいという丸投げ状態になっていると感じている。  
⇒総合戦略でも記載しており、市が責任を持って運用する。

#### 【基本構想・基本目標、4-2】

- ・子どもの権利条例、制定とともに「啓蒙・啓発」といったことを入れてもらいたい。2, 3年後に制定されることが決まっているので、意思表示として考えると、一歩進めてもらいたい。  
⇒担当課と話を詰めてきたなかでの基本計画のシートとなっている。今後の検討課題とする。
- ・特色ある教育に取り組む、KPIを見ると、忙しい学校教育の場を考えると断られる。ONE ACTION は、KPI が 100%達成ということであれば、別のものに変えてもいいのではない

か。

⇒一歩前に出るとい性格で作ってもら意図であったものの、現状となっている。

【委員長】

- 特色ある教育が出来ているのかどうか、KPI に合わせていけるのかといったことが不透明になっている。自然等を活かしての教育が実現できるとよい。

【5-2】

- ・誘致するにしてもインフラが整っていないとこないと考える。2つの課になっているが、どちらの課が頭となるのか。

【5-3】

- ・企業を誘致するにしてもインフラが整っていないというのが一番の欠点であると思っている。生活排水処理率は大阪府下で一番下である。また、下水道整備計画において、普及率も低い。
- ・能勢町は、下水道と個別浄化槽など切り分けて、集中下水処理計画というのを実施して、生活排水処理率を上げていっている事例もある。

【委員長】

- 生活排水処理計画内でどのように記されているのか。  
⇒部局の統合等の議論までには至っていない。インフラ整備の話が主となるため、そういった性格で整理していこう。
- 公共下水道はお金がかかるが、直営でいくのか、合併浄化槽などの策を講じて、方針を転換するのか。
- 水をきれいにするとといった目的のために、公共下水道については、管轄省庁がバラバラ、公共下水道は国土交通省、合併浄化槽は環境省、集落コミュニティ下水は農林水産省。何に注力して水をきれいにするのかを考えると、おのずと手段やお金を引っ張ってくる形が出来上がってくると考える。そういった整理が必要。

## 土地利用計画

【方針図】

- ・土地利用基本方針図：規制市街地を設定してもら方がよい。観光連携軸の軸は双方向とになっていない。移住定住をすすめるにあたってどこに住んでもらうイメージなのかが見えない。
- ・地区計画で綺麗にすると、土地の価値が上がるといった考えで記載されている。横浜は、第1種低層住宅専用地域→第2種低層住宅専用地域に変更して、まちづくりを進めることを検討。用途緩和はどこまでやるのか。魅力的な市街地づくりに向けた議論を検討します。といった文言が入っていることが望ましい。  
⇒シティプロモーションの売りを特定しつつ、土地利用の促進をしたい。規制市街地については議論を深めていく段階にならなかった。

・ 阪南市の土地利用基本方針図：郊外分散型都市づくり、ポストコロナ後に必要となってきたている。

【委員長】

- 都市計画の考えが10年前ぐらいの古いものとなっている。都市計画マスタープランで話始めるとしても、頭出しが必要。
- 阪南市のニュータウンにも、既存のあり方とは異なる視点が必要ではないか。